



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,694 戸
人口	12,676 人
男	6,254 人
女	6,422 人

(令和元年. 10.1 現在)

米作りで交流 横沢

横沢の3町会には、農家組合員や町内公民館、横沢子ども会育成会などで構成する、夢と希望の宇宙船「横沢わくわくスペースシップ」があり、住民の交流事業や環境整備など多彩な事業を行っています。そのうちの米作りによる交流事業について紹介します。



▲5月下旬 もち米の田植え

令和となった5月下旬に、農業体験圃場に多くの子どもたちが集まり、もち米の田植えが始まります。苗束から4、5本を取って3本指で植えるように説明を受けてから、裸足になって一列に並び、田の



▲9月 はぜ掛け

表面の線にそって植えていき、転ばないように子どもが大変です。その横を大人はテンポよく植えて行き、みんなでわいわいしながらの楽しい田植えでした。田植え後に横に流れる用水で足を洗うのですが、梓川水系からの冷たい水で長く入っていることができません、5月晴れの太陽のもとで乾かしました。



▲「ほんによ」作り

田植えが一段落すると「おこひる」です。この地域では「結」といって田植えや稲刈りを互いに助け合って行つて、おこひるには手伝ったみんなで赤飯や天

寄せ、漬物でお茶をいただきます。木陰にシートを敷いて、大人も子どもも一緒に食べる赤飯は美味しかったです。

秋9月の稲刈り、子どもたちは稲刈り鎌を使うことが初めてで、一株一株刈つて後ろに置くと、大人が腰につけた稲わらで手際よく結束しました。稲を刈り終わると長いはず棒をわたして、はぜ掛けが始まり、子どもたちも稲束を一生懸命運びました。令和の収穫を記念し、真直ぐに立てた棒の下部に棒で十文字の棚を作り、その上に稲束を交互に積み上げる「ほんによ」も作りました。稲刈り後の9月26日の秋祭には、五穀豊穡と書かれた提灯を飾った山車



▲山車

気に響かせて、収穫を感謝します。また、1月3日には子どもたちが収穫したもち米で餅つきの会を行っています。地域の人たちが1年の米作りを通して交流し、米作りの文化を次世代の子どもに伝承していました。



▲元気にスタートする参加者

梓川地区ウォークラリー

9月29日(日)、松本市スポーツ推進委員協議会(梓川地区担当)と梓川公民館の共催で「梓川ウォークラリー2019」が開催され、約30人が参加しました。

梓川地区運動会が中止に

大型の台風19号が10月12日から13日に最接近し、千曲川の決壊や特急あずさの運休、中央道の通行止め、松本市民体育大会中止、リングの落下など、各地に大きな被害をもたらしました。

令和となって最初の運動会は、10月14日(月)の体育の日に予定していましたが、台風19号による影響と、早朝からの雨により中止となりました。

梓川公民館報 縮刷版第6巻刊行

梓川地区まちづくり協議会と梓川公民館とで公民館報701号〜800号までをつづつた縮刷版第6巻を刊行しました。梓川公民館、

梓川図書館で閲覧ができません。



秋のお楽しみ会

10月26日(土) 梓川公民館と梓川図書館の共催による秋のお楽しみ会・本の読み聞かせと人形劇が、梓川公民館で開催されました。

当日は子どもと保護者、梓川児童センターの子どもたち約60人が集まり、会が始まるのを楽しみに待ちました。

お楽しみ会は、二部構成で行われ、第一部は本の読み聞かせ(お話会)でした。

まず始めは、公民館図書委員の皆さんと手遊びをしました。「お化けのケツケツケ」と楽しく手足をブラブラとさせて遊びました。大きな紙芝居「雨の日の遠足」では、トンネルを抜けると変わっていく景色に子どもたちは、楽し

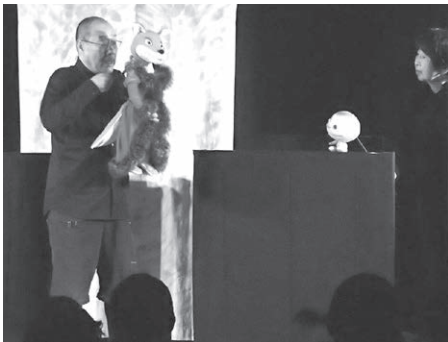


▲図書委員による「手遊び」

そうにワクワクしながら紙芝居を見ていました。

梓川図書館によるパネルシアターでは、どんぐりコロコロを手拍子を交えて楽しく見ることが出来ました。

第二部の人形劇は、ホーボーズ・パペットシアターによるロシアの民話「おだんごパンがコロコロ」でした。「ホーボーズは方々へ公演へ行くことからホーボーズです。」との紹介から始まり、劇の始まる前には、皆で手遊びをしてリラックスしてから劇に入りました。



▲人形劇「おだんごパンがコロコロ」

おだんごパン君が、色々な動物達に食べられそうになりながらコロコロ逃げて行き、その度に「コロコロコロコロコロ」と台詞が流れると、子どもたちからは笑い声と「可愛い」との声が聞こえてきました。

最後はホーボーズの皆さんとお人形の周りに子どもたちが集まり、劇で使用された人形を「可愛い!」と触らせてもらいながら秋のお楽しみ会は終了となりました。

上角影の身代わり地蔵

9月23日(月) 秋分の日に地蔵尊祭りが行われました。

小雨の降る中、約30人が集まり、御堂の前で草刈りなどをしたのち、念仏をとなえ大きな数珠を全員で回し、供養をし、火災除けの御札をもらいました。

地蔵尊祭りの由来は、江戸時代後期の頃、尼僧の恵暁が御堂の地蔵様が淋しそうだと、思い、地蔵様と一緒に暮らすため御堂の借用を村人に申し出ました。村人も快く受け入れ「地蔵堂」の堂守としてお地蔵様と暮らすことになりました。念仏をとなえたり、お地蔵様を綺麗にしたりして修行に励んでいた夜のこと、「火事だ、早く起きなさい」と地蔵



▲皆で大きな数珠を回し供養

蔵様からの声で目を覚ますと地蔵堂の中は火の海になっていました。恵暁は燃えている地蔵様を抱えたまま近くの池に飛び込み、怪我一つなく助かりました。地蔵様は左半分が焼け焦けてしまいました。村人たちは焼けた地蔵堂を建て直し、恵暁に引き続き堂守となつてもらい、焼けたお地蔵様を白い布で包み、再び安置しました。

先日75歳以上の運転免許証の高齢者講習を受けて来ました。若い若いと思っていたら、いつの間にか何かと世の中の話題になる領域に入ったようです。確かに物忘れが激しくなりました。思えば国民皆貧乏の時代から、一億総中流意識を持つていた時代になり、そしてまた、おおかたの人が貧富の差を感じ、先行き不安な思いを持つ時代になりました。考えてみますと、これらの感じてきたものではないかしらん。そこで、思い切つて角度を変えて考えてみました。毎日の納豆がおかずの食事、安酒の晩酌、図書館から本を借りての読書、毎月1回の「歌ごえ公民館」、庭で採れた野菜の浅漬、やさやかな趣味の蒐集、毎月4回ほどの5%引きの買い出し、そうそう毎日の新聞配達も17年目か。実はただ今続行中の私の一年間の実生活なのです。昔からこのように生きてきたような気がします。故に下流とも中流とも思ったことがありません。そして今で言う、育メン、主夫のはしりをやっていたかもしれない。こんな生き方も楽しいものです。

雑記帳

